

会 議 録

会議の名称	令和5年度第2回本庄市総合教育会議				
開催日時	令和5年10月26日(木) <table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: middle;"> <tr> <td>午前</td> <td>・午後 10時00分から</td> </tr> <tr> <td>午前</td> <td>・午後 10時45分まで</td> </tr> </table>	午前	・午後 10時00分から	午前	・午後 10時45分まで
午前	・午後 10時00分から				
午前	・午後 10時45分まで				
開催場所	早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター N406研究開発室				
出席者	<p>【構成員】 吉田市長、下野戸教育長、岡崎教育長職務代理者、 落合委員、今井委員、高橋委員</p> <p>【ふれあい教室】 島田室長</p> <p>【教育委員会事務局】 笠原教育委員会事務局長、武政教育委員会事務局参事、 新井教育総務課長、岡芹学校教育課長、 柳教育総務課長補佐、学校教育課磐上指導主事</p> <p>【事務局】 内田企画財政部長、橋本企画課長、鈴木企画課長補佐、 企画課坂口主査</p>				
議題 (次第)	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長挨拶 3 教育長挨拶 4 議 題 ふれあい教室について(意見交換) 5 その他 6 閉 会 				
配付資料	<ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1：本庄市教育支援センター「ふれあい教室」について ・別紙資料1：【A4版パンフレット】本庄市教育支援センター「ふれあい教室」 ・別紙資料2：ふれあい教室について(教師用) ・別紙資料3：【A3版パンフレット】本庄市教育支援センター「ふれあい教室」 				
その他特記事項					
主管課	企画課				

会 議 の 経 過	
発 言 者	発言内容・決定事項等
事務局 (企画課長)	<p>皆さまこんにちは。本日はお忙しいところ、令和5年度第2回本庄市総合教育会議に御出席を賜りまして誠にありがとうございます。司会を務めさせていただきます、企画財政部企画課の橋本と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これより会議を始めさせていただきます。</p> <p>なお、本日は傍聴の希望者はありません。</p> <p>次第の2、市長挨拶でございます。本庄市長よりお願いいたします。</p>
市長	<p>皆さまこんにちは。さきほど、ふれあい教室を視察させていただきました。島田室長には、色々とお説明いただきありがとうございました。</p> <p>振り返りますと、旧勤労会館2階にふれあい教室が設置されてから、長い年月が経ちます。茂木元教育長が、教育長に就任する前にふれあい教室で先生をしまして、他の先生方と共に、子供達に対して熱心に向き合っていたいただいたことを思い出します。</p> <p>ふれあい教室を見玉郡市で設置して20年以上になりますが、このたび、早稲田大学から御厚意をいただき、現在の場所に移転しました。視察の中でも御説明いただきましたが、不登校のお子さんが増えている現状の中で、ふれあい教室が果たしている役割は益々大きくなっていきます。</p> <p>不登校については、全体を捉えていかなければならないですし、各学校でも不登校のお子さんを見ていただいておりますが、御説明にあったように、全体の約1割のお子さんが学校にもふれあい教室にも行くことができないという状況がありますので、この点をどうしたら良いかということも大きな課題です。</p> <p>一方で、様々な面でICT化が進み、コミュニケーションの重要性が高まっていますが、コミュニケーションが苦手な方がどのように社会に適応していくかということは、社会的な課題であると私自身認識しています。大きな目で、不登校の問題は考えていかなければならないと感じます。</p> <p>本日は、ふれあい教室について意見交換を行います。皆さまには忌憚のない御意見をいただきますようお願い申し上げまして、御挨拶とさせていただきます。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。続きまして、次第の3、教育長挨拶でございます。下野戸教育長よりお願いいたします。</p>
下野戸教育長	<p>皆さまこんにちは。さきほど、ふれあい教室を視察させていただき、良い場所に移転することができて、本当に良かったと思います。</p> <p>私が学校で校長をしていた頃から、不登校については喫緊の課題と捉えており、全国的にも、本庄市においても数が増えているという現状があります。</p>

	<p>不登校の問題については、国でも“学校に戻ることで目的ではない”と言われており、“子供たちの社会的自立をどのように目指していくか”ということが重要です。そのための居場所づくりも大切ですので、皆さまのお知恵をいただきながら、前に進めていければと思います。よろしくをお願いします。</p>
事務局 (企画課長)	<p>ありがとうございました。それではここで、配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>① 本日の次第 ② 資料1 本庄市教育支援センター「ふれあい教室」について ③ 別紙資料1 【A4版パンフレット】本庄市教育支援センター「ふれあい教室」 ④ 別紙資料2 ふれあい教室について（教師用） ⑤ 参考資料3 【A3版パンフレット】本庄市教育支援センター「ふれあい教室」</p> <p>以上、5点でございます。</p> <p>それでは、これより議題に入らせていただきます。本庄市総合教育会議運営要綱第4条第1項の規定により、市長が本会議の議長となることとされております。これからの議事の進行につきましては、吉田市長をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。</p>
市長	<p>要綱に基づき、議事の進行をさせていただきます。会議のスムーズな進行に御協力をよろしくお願いたします。</p> <p>本日の会議録でございますが、本庄市総合教育会議運営要綱第7条第2項の規定により、「会議録には、市長及び市長が指名する1人の構成員が署名するものとする」とあります。本日の会議録につきましては、私と下野戸教育長が署名するということよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>それでは、事務局にて作成された会議録につきましては、本日御出席の皆さまにご確認いただいた後に、私と下野戸教育長で署名を行うこととさせていただきます。</p> <p>議事に入らせていただきます。本日の議題の「ふれあい教室について」事務局から説明をお願いします。</p>
【議題】 ふれあい教室について	
事務局 (学校教育課 磐上指導主事・ふれあい教室島田室長)	(資料に基づき説明)
市長	<p>ただいま、「ふれあい教室について」説明いただきました。皆さまから御意見・御質問等ございますか。</p>

岡崎委員	<p>先生方に話を聞いてもらえる、あるいは褒めてもらえるということが、子供達に良い影響を与えていると思います。学校では防御本能が働いてしまうお子さんも、ふれあい教室に通うことによって、徐々に馴染めるようになっていきます。</p> <p>学校の中で、きめ細かく対応していただいている先生方もいますが、学校そのものに行けなくなってしまう場合もありますので、ふれあい教室で緩和していくことはとても良いと思います。</p> <p>ただ、ふれあい教室が高台に移転しましたので、自転車では通いづらくなってしまいました。この点については、市で配慮していただけるとありがたいです。</p>
市長	<p>御意見ありがとうございます。</p> <p>私からもお尋ねしますが、ふれあい教室のスタッフについて、生徒が増えた時には増やして、生徒が減った時には減らすということができのでしょうか。教育は、先生と生徒との信頼関係も大切です。人手が足りないから増やす、足りている時には減らすといった対応はなかなか難しいと思いますが、いかがですか。</p>
島田室長	<p>私達は、生徒の学校復帰を目指しています。中には、年度をまたいでふれあい教室へ通う生徒もいますが、4月にはほとんどの生徒が学校へ戻ります。</p> <p>ですから、4月は生徒が3、4人ですが、1学期の間に約10人に増え、2学期には約20人、3学期になると約25人になります。そうなりますと、3学期は運営が難しくなってしまいます。1学期は生徒の人数が少なくなっていますが、もう1名スタッフを増やしていただくと、3学期に対応できると思います。</p> <p>不登校のお子さんの数が増えていますから、今後、ふれあい教室の生徒数が急激に減ることはないと考えています。しかし、私達は学校と連携をしながら学校復帰を促しており、今後もそれは継続していきますので、月による変動は大きいですが、年度による変動はそれほど大きくならないと考えています。</p> <p>学校ごとに、ふれあい教室に通う生徒の人数も違います。生徒数が多い学校もあれば、距離的な問題があり、生徒数が少ない学校もあります。</p>
市長	<p>各学校においても、不登校の傾向があるお子さんには、別の教室で教えるといったことをしていますね。各学校で行っていることと、ふれあい教室で行っていることの違いというのは、どういった部分なのでしょう。</p>
島田室長	<p>全国的に見ますと、東京都などでは校内適応指導教室というものを設置しています。なぜそういったものを設置しているかと聞いたところ、校外の適応指導教室には距離的な問題があつて通えないお子さんがいるからということでした。</p> <p>相談室では学習ができませんので、学習面の指導をする先生を校内に配置するという事は、予算のある自治体では可能だと思</p>

	います。ただ、学校という場所から離れた方が良いお子さんもいますので、そういった点では違いがあると思います。
市長	お子さんの状況に応じて、担任の先生や校長先生、教育委員会も含めて、このお子さんは校内で、このお子さんはふれあい教室で、といった振り分けをしているのでしょうか。
島田室長	そうですね、やはりお子さんによって状況が違います。お子さん自身の状況も違えば、距離的な面でも違いますので、居場所という意味では、校内適応教室もふれあい教室もあると良いと思います。
市長	実際に、各学校にもそういった教室はありますよね。
教育長	<p>各学校に、学校には行けませんが、自分のクラスの教室には行けないというお子さんがいますので、そういったお子さんが通うための教室はありますが、教室に先生が常駐することは難しいです。中学校では授業がない先生が教室に行く、あるいは、小学校では授業がない先生は少ないので、保健室の一角に机を置いて学習するといった対応をしています。</p> <p>現在はリモート授業ができますので、他の生徒と一緒になければ授業を受けられるというお子さんは、保健室でリモート授業を受ける場合もあり、学校によって対応は違います。お子さんの状況は様々ですから、御本人と保護者の方と相談をしながら、どのような形が良いのか考えています。</p>
島田室長	適応指導教室では、勉強を教えることができるという点がメリットだと思います。学校には先生がたくさんいますが、先生方も授業などがありますから、不登校の傾向があるお子さんを特別に教えるということは難しいです。全ての教科が理解できなくても、1教科でも理解できれば自信につながりますので、不登校の時期に学習面のフォローをしっかりと行うことはとても大切だと思います。
学校教育課長	<p>さきほど、ふれあい教室のスタッフについて御質問をいただきました。現在、ボランティアを募集し、登録制にして、生徒が増えた時には指導をお願いする、あるいは、ふれあい教室は1市3町で運営していますので、3町にもお声掛けをして、人的な支援をいただくといったことを考えています。</p> <p>また、スチューデントサポーターという制度がありまして、臨床心理士を目指すといった目標のために、ふれあい教室へボランティアに来る学生もいます。スチューデントサポーターは大学生が多いので、大学生に「時間があったら協力していただけませんか」と呼びかけていきたいと考えています。</p>
市長	各町との連携については、どのような状況ですか。
学校教育課長	ふれあい教室の移転の際にも、各町に手伝っていただきました。各町とは指導主事同士で話しており、連携は取れていると思いま

	す。
市長	連携は取れているということですね。他に、皆さまから御意見等ございますか。
高橋委員	<p>私は職業柄、高齢者の問題を考える場面があります。例えば、介護認定審査会の症例をたくさん見ていますが、高齢者1人もしくは2人と、非就業の成人の子供がいる2人家庭、3人家庭という家庭が気になります。</p> <p>不登校のまま成人しますと、社会性の欠如や人間関係を確立できない状況が改善されず、ニートと呼ばれる状態になってしまう場合があります。</p> <p>さきほど、島田先生がふれあい教室の卒業生の素晴らしいエピソードを紹介されましたが、お子さんの脳は可塑性や柔軟性があります。社会的自立や社会性の確立を促すため、ぜひとも1市3町でこういった教室を充実させていただきますようお願いいたします。これは将来につながる問題ですので、ぜひ御検討ください。</p>
市長	<p>ありがとうございます。おっしゃる通りだと思います。</p> <p>全国市長会の代表として、国の会議等に出席する中で、少子化対策の話題が出ます。少子化対策は、結婚される方が増えて出生率が上がらなければ、根本的には解決できません。</p> <p>それと同時に、今の社会をどのように維持していくかということも考えなければなりません。そういった点から、不登校については、社会を支えていく上でも力を入れなければならない課題だと思います。</p> <p>成人した時に、自分が進みたい道へ進み、仕事をすることは、自分だけでなく人のためにもなりますので、不登校への対策については国においてもしっかりと取り組んでいただきたいということ、私は言い続けています。各自治体の予算には限りがありますから、国においても考えていただきたいと思います。</p> <p>他に、皆さまから御意見等ございますか。</p>
落合委員	<p>本日はありがとうございました。ふれあい教室を見学して、何点か気づいたことがありました。まず、天井がとても高いので、心理面で影響を与えるのではないかと気になりました。また、採光についても、本日は幕が張ってあり、外からの採光は確認できませんでしたが、普段はどんな明るさなのだろうと気になりました。空調はとても良いと思います。いずれにしても、生徒達は良い環境の中で過ごすことができていると感じました。</p> <p>資料を見ますと、別紙資料2の3(1)に「不登校のきっかけ・理由」という円グラフが掲載されていますが、7%が「先生のこと」ということで、先生との関係性という部分は非常に重視しなければならないと思います。</p> <p>先生が「こんなことができないの」と言っただけで、その後3年間不登校になったというお子さんもいます。先生方はそれほど</p>

	<p>重い言葉だとは思わなくても、ふとした一言でお子さんを傷つけてしまう場合があります。そういったことを、先生方に認識していただくための研修等も必要だと思います。生徒も先生も「共に育つ」という意味で、「共育」といった視点で様々な支援をすることによって、不登校の問題を改善できればと考えていますので、私も一緒に検討していきたいと思います。</p>
市長	<p>「先生のこと」というのは、色々なケースがあると思いますが、落合委員がおっしゃったようなケースが多いのでしょうか。</p>
島田室長	<p>いじめの例もそうですが、今の子供達は傷つきやすい面もあるのかなと思います。実際に、落合委員がおっしゃったようなケースもございます。</p>
落合委員	<p>先生が「こうしましょう」と言ったことをなかなかしてくれなかったということで、お子さんとの信頼関係を損なってしまい、不登校になるケースもあります。保護者には、「頭が痛い」あるいは「気持ち悪い」としか言わない場合もあるようです。</p> <p>特に13歳、14歳位の時期というのは、これからどのように学んでいくか、成長していくかといった点も含めて重要な時期です。この時期のお子さんの成長を注意して見ていくといったことも、プログラムを組んで展開していく必要があると思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。他に、皆さまから御意見等ございますか。</p>
今井委員	<p>どうもありがとうございます。お話を伺って、お子さんにとっては成功体験といいますか、褒められることが意欲を引き出すことにつながると感じました。</p> <p>一方で、お子さん自身が変わる必要があるというお話もありました。常に大人が守るということではなく、お子さん自身が変わるための支援が必要だと思います。ふれあい教室を出ても、また嫌なことがあれば戻ってしまうのではなく、次に嫌なことがあった時には、自分で状況を変えようとする意欲を持てるようになることが大切です。</p> <p>さきほど、ニートについてのお話もありましたが、これは教育の中でも一番難しい部分だと思います。お子さん自身が嫌な思いをしながら、人間関係を乗り越えていくことは、子供同士の関係でしか体験できないことです。ですから、子供同士の遊ぶ機会を大切にしていきたいです。</p> <p>また、体育の授業があることは、とても良いことだと思います。マイナスの感情に対しては、体を動かすことが効果的だという研究もされています。ふれあい教室には広い体育館がありますので、今後は卓球だけでなく、よりアグレッシブに体を動かす活動を取り入れていただければと思います。</p>
島田室長	<p>私達は、不登校は特別なことだと捉えてはいません。たまたま、いじめや耐え難い環境があって、一時的に学校に行けないだけで、</p>

	<p>子供達の持つ素晴らしい力を信じております。信じるのが、力を伸ばすことにつながると思って接しています。</p> <p>少し元気が無くなっているだけで、特別ではなく、可能性のある子供達です。音楽や絵を描くことによって道が開ける場合もあります。そういった子供達を見て、信じて、応援しながら、日々接しています。</p>
市長	<p>集団に馴染めないことがあっても、才能を持っていたり、感受性が強かったりというお子さんは、良い面を伸ばすことで開花すると思います。</p> <p>学校教育自体が、集団の中で生活することに重きを置かれている部分があります。社会的に見ますと、昔は第一次産業や第二次産業が多く、コミュニケーションが得意でなくても、仕事に打ち込めば生計が立てられました。今は第三次産業が主流になっており、とにかくコミュニケーションが重視されるようになっていきます。これでは、コミュニケーションが取りづらい方は疲れてしまうなど、私は感じています。</p> <p>そういった点も含めて、不登校が増えているという状況を見ますと、社会の変化によって、ある面で人間が生きづらい環境が生まれているのではないかと感じます。これは社会全体の課題ですが、農業や職人といった職業に、若い人が就きやすくすることはできないだろうかと考えています。</p>
教育長	<p>学校では、皆が一斉に同じ方向を向くことを良しとする部分がありますが、それに合わない子供達があります。学校でも、子供達の多様性が増していると感じているところです。例えば、発達障害の傾向がある子供達も増えていきますし、先生方の言葉で傷ついてしまう子供達もいますので、そういった研修等も実施しています。</p> <p>しかし、さきほど落合委員がおっしゃったように、先生方が悪気なく言った一言で、子供達を傷つけてしまうことがあります。自戒も込めて、注意しなければと感じています。</p>
市長	<p>兄弟がいて、家庭内でけんかをしたり、言い争いをしたりということがあれば、子供達も厳しい言葉に慣れるかもしれませんが、子供の数自体が減っていますからね。</p>
岡崎委員	<p>言葉がインターネットやSNSを介して文字になると、残ってしまうということもありますね。</p>
落合委員	<p>島田室長に伺います。ふれあい教室に通うお子さんは、感性が豊かな面があるのではないかと思います。いかがですか。</p>
島田室長	<p>本日配付した資料にも、生徒の絵が描かれています。とても上手です。絵が上手な生徒や、音楽に優れている生徒が多いです。また、学校へ戻った生徒ですが、小説のコンクールで賞を取った生徒もいます。</p>
落合委員	<p>ふれあい教室では、感性を育てるということを進めていただく</p>

	<p>と、将来的にお子さんが良い方向へ向かうのではないかと思います。その点についても、一緒に検証していければと思いますので、よろしく願います。</p>
市長	<p>皆さまから貴重な御意見をいただいておりますが、終了のお時間となりました。不登校の対策は非常に大切です。教育委員会部局だけでなく、市長部局ともしっかり連携を取り合いながら、考えていきたいと思ひます。</p> <p>お子さん自身のことで不登校になっている場合もあれば、家庭に問題を抱えている場合もあり、お子さんを守るために、直ちに対応が必要な場合もあります。ですから、子育て支援課をはじめ、市長部局ともしっかり連携を取って、取り組まなければならない課題と捉えています。</p> <p>まだまだ御意見をいただきたいところですが、議題については以上とさせていただきます。円滑な議事進行にご協力いただき、誠にありがとうございました。それでは、進行を事務局へお返しします。</p>
事務局 (企画課長)	<p>皆さまには、慎重審議いただき大変ありがとうございました。最後にその他といたしまして、今後のスケジュールについて御説明いたします。次回、第3回の会議を、1月頃に開催する予定でございます。詳細が決まり次第、開催通知を発送いたしますので、よろしく願ひいたします。その他につきましては、以上でございます。</p> <p>それでは、以上をもちまして、総合教育会議を終了いたします。本日はありがとうございました。</p>

市 長

吉田 徳解

教 育 長

下野戸 陽子